



信州つばさプロジェクト留学報告書

「SDGs 探究コースⅠ」(台湾)





信州つばさプロジェクト

「SDGs 探究コース I（台湾）」

長野県教育委員会と連携協定を締結した台湾・高雄市へ県内の高等学校等の生徒を派遣し、継続的な交流を通して国際理解を深めるとともに、現地高校生との英語での異文化交流や学習を通じて国際的な感覚を養い視野を拡げ、グローバルな社会で活躍できる人材を育成する。

特に 2030 年の社会の方向性を考える SDGs について理解を深める機会とするため、公的機関や企業等を訪問して現地で活躍する日本人にお話を伺うほか、現地でのフィールドワークを通して、SDGs の要素について各自が設定したテーマを探究する。

・期 日：令和 6 年 3 月 3 日（日）～ 9 日（土）

・人 員：生徒 22 名、引率 2 名

・日程表

日次	期日	地名	時刻	日程
1	3/3 (日)	成田空港 発 高雄 着	午後 夕方	○成田空港集合 搭乗・出国手続き、空路にて高雄へ ○高雄空港到着、ホテルへ
2	3/4 (月)	高雄滞在	午前 午後	○高雄市教育局、日本台湾交流協会高雄事務所訪問 ○高雄市内の高校にて交流
3	3/5 (火)	高雄滞在 台北滞在	午前 午後	○高雄市内企業訪問 ○高雄市内見学 ○台湾高鉄で台北へ
4	3/6 (水)	台北滞在	終日	○新北市立淡水高級商工職業学校にて交流
5	3/7 (木)	台北滞在	午前 午後	○中国文化大学訪問 ・ディスカッションや授業参加 ・学生との B&S 班別研修プログラム
6	3/8 (金)	台北滞在 プノンペン 発	午前 午後	○国立故宮博物院 ○龍山寺、九份見学
7	3/9 (土)	台北 発 羽田空港 着	朝 午後	○台北空港出発 ○羽田空港着、解散



※B&S（ブラザー＆シスター）研修：兄弟姉妹のように交流しながら実施する研修

◆事前学習：令和 5 年 9 月 16 日、令和 6 年 1 月 20 日、2 月 17 日

台湾留学

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

百聞は一見にしかず。台湾で過ごした1週間で改めて日本の良いところ、悪いところを知ることができた。

○良いところ

日本は生活水準が高い＝インフラが整っていることを痛感した。今回は台北や高雄など台湾の都市部にしか滞在していないが、所狭しに何でも詰め込んだような雑多な街並みだった。日本は自然を活かしながら景観を大事にした街作りをしているように思えた。自然と調和した美しい景色の中で生活できることに幸せを感じた。台湾は生活に欠かせないサニタリー設備が整っていなかった。「清潔」と呼べるレベルの公衆トイレはなく、特にトイレにトイレットペーパーが用意されていない場合が多いことが衝撃だった。日本では学校や公衆トイレなど美化はあれど、どこへ行っても設備は整っている。今まではそれを当たり前だと思っていたが、海外の現状を知ったことで日本のインフラ整備が進んでいるのだと実感でき、日本を誇らしく思った。

○悪いところ（これから変われば良いところ）

日本人は内向的だと感じた。日本人のコミュニケーション能力の素晴らしいところは①人の意見に耳を傾け「聞く」姿勢、②話を合わせる「同調」などがある。それらも素晴らしい能力だと思うが、積極性に欠けるといふ大きな欠点を感じた。台湾の学生たちはホスト側だったということもあるかもしれないが、積極的に声を掛けてくれた。言葉が通じる、通じないは二の次で自分たちのことを知ってもらおうとジェスチャーを交えながらどんどんと前へ出てくる。自分をアピールすることがとても上手だった。強い意思が言葉の壁を越えて、たくさんの学生と交流を深められた。これから世界へ出ていこうとすると、相手から話しかけられるのを待つ傾向がある日本人は世界では通用しないと思った。

コロナが明け、これからさらにグローバル化が進む。その中で日本人が他国の人と対等に接していくには「積極性」「アピール上手」「言語力」が必要だと思った。私はこれから世界へ出て行きたいと考えているので、日本の良さを心に留めながらも先ほど挙げた3つのことを念頭において学び、自分を高めていきたいと思う。

2 台湾に対する理解や印象について

「台湾有事」。ニュースなどで不安定な現状の中で生活をしているという印象があり、同じ世代の高校生たちはこの問題をどう思っているのか知りたかった。何人かに質問したところ、複雑な歴史背景についてかなり冷静に捉えているという印象を受けた。「中国についてどう思っているのか」と聞いたところ、「中国人はいい人だし、景色もきれいだ。私は歴史を学ぶのが好きだが、一番最初に好きになったのは中国史だった。最悪なのは政府だ。」と答えた。政治という一つの観点だけにとらわれず人柄、もの、景観などを客観的に捉え、中国の全てを否定するわけではなく、いいところをきちんと認める姿に驚き、尊敬した。とても大人だと感じた。冷静でいられる理由を聞くと「もう慣れた」と言われ、その言葉が胸に突き刺さった。また、台湾人の方と結婚をされている日本人の先生にも話を聞いたところ、旦那さんの戸籍に中国人と書かれていても本人は「もう慣れてるし気にしていない」と話したそう。当事者ではない私達のほうが気にしている」と先生は話していた。自分の国が別の国になってしまうかもしれないという恐怖に慣れるしかない現状にとっても切なくなった。

台湾の学生やガイドさんなど関わった多くのおみなさんはとても明るく朗らかでそして冷静で豊かな心を持っていると感じた。自分の国がなくなるといふことはアイデンティティが奪われる、自分を否定されるのと同じことだと思う。私は、日本人でありそのことを誇りに思っている。それと同じように台湾の国民が何も気にすることなく「私は台湾人だ」と堂々と言える世の中になってほしいと思った。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

台湾の高校生はそれぞれの個性を活かしながら自由に学校生活を送っていた。英語、日本語、中国語の3ヶ国語を話せる学生は開催式での代表者挨拶の通訳をし、デザイン学科の人は自分のデザインをいきいきと発表してくれた。また、授業は意見が活発に飛び交い和気あいあいとした雰囲気が進み、主体性の高い学びの場であり刺激的だった。海外の学校の授業は生徒が積極的に意見をいうと聞いていたが、実際授業を受けてみてなぜそう言われるのか納得した。「教員 対 生徒」という構図ではなく、教室にいる生徒全員によって授業が作られていた。日本人の礼儀正しさや人の話を聞く姿勢はもちろん大切だが、台湾の授業のような環境で学習することも大切だと思った。

4 今の目標や今後の進路について

異文化理解や語学を学べる学部に進学したい。今回現地の高校生との交流を通して、実践的に外国語を話す経験ができた。言いたいことをすべて伝えきれないにしても、自分なりに言葉を並べ意思疎通を図ろうとすることがとても楽しかった。学校で行われるような「完璧さ」を求める語学学習ではなく、「伝える」ことを目的としコミュニケーションの手段として言語を学ぶ楽しさを、研修を通して感じられた。大学では語学学習を進めながら、その言語が話される国の文化や歴史的背景などを学び、様々な国の文化について理解を深めていきたい。

5 帰国後の活動

4月に学校内で行われる、アカデミックプレゼンテーションでの発表を予定している。また、海外に興味を持っている友人や後輩に話したいと思う。今回感じた台湾の魅力を様々な人に発信していきたい。発信していくことで台湾に興味を持つ人が増え台湾へ行く人が増えるなど、私の経験が台湾と日本をつなぐ一つにきっかけになれば嬉しい。



集合写真



マンゴーかき氷

一週間の台湾での生活から学んで得たもの

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

このプロジェクトに参加する前は「日本と同じ感じだろう」と思っていたが、実際に行ってみると水道水が飲めなかったり、電車での飲食禁止など日本との様々な違いを発見でき、自分で想像したり画像で見るよりも実際に行き、見て、体験することが大切だと感じました。

また、参加前は自分のコミュニケーション能力について少し心配で、いざ行ってみると周りから中国語が聞こえてきて何もわからず不安でしたが、自分の分かる単語を使ったり、ジェスチャーをしたり、公共の場では英語は通じるところが多いので英語を使ったりなど、今自分ができていることをやって自分の意見を伝えられたのであまり不安はなく楽しく一週間過ごすことができ、自分の英語力やコミュニケーション能力に少し自信ができました。

2 台湾に対する理解や印象について

台湾は比較的発展していて、とても明るい国でした。自分が行った場所は電車なども日本と同じくらい発展していて、綺麗な街並みでした。夜市やスーパーなどに行くと日本食のお店がたくさん並んでいたり、日本のお菓子などもたくさん売っていました。そして、台湾の人達はとても優しく、自分たちと交流した高校生は日本語をうまく話していて、日本の文化が好きだという人もたくさんいたので日本は台湾の人から愛されているのだと感じました。また、台湾は歴史ある場所が多く伝統的なものもたくさんあるので、台湾の人達は自国の文化や伝統などを大切にしているのだと感じました。今回の研修で台湾のことをたくさん理解したのでまた訪れたいと思いました。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

私はこの研修で英語でのコミュニケーションを頑張りたいと思っていました。もちろん、大半の人は日本語が使えないので、会話は全て英語、挨拶などは中国語を使って会話を行っていましたが、自分は中国語は全く話せず、相手も日本語や英語を完璧に話せるわけではなかったことでことばの壁がありました。ですが、わからなかったり伝えることが難しいと感じた時、ものには頼らず自分が伝えたいことをジェスチャーや簡単な英単語を使って会話をしていました。大事なほうまく伝えることよりも色々な人とコミュニケーションをとって意見交換をすることが大切だと思いました。また、少しでも知っている中国語を使うことで交流していく中で仲が深まり、台湾を知るきっかけの一つとなるのではないかと感じました。

4 今の目標や今後の進路について

今回の研修を通して、自分の英語力が十分ではないことがわかりました。高校生・大学生とはコミュニケーションはとれたものの、聞き取れなかったりしたことが多少あったので、さらにコミュニケーションが取れるように英語力の向上を図っていきたくです。

また、もっと異文化理解を深めて行きたいと感じました。この研修で日本と台湾の間での文化の違い、良さをたくさん知ることができました。もっと広い世界を見るために色々な国に行き文化の違いを見つけ、触れられる機会を作りたいです。また、今自分ができていることは台湾の高校生と交流を続けることだと思うので、そこから異文化理解に関係することができるよう自分のできていることに取り組んでいきたいです。台湾の高校生と一緒に台湾、日本の文化について両国に伝えていきたいと思っています。

5 帰国後の活動

学校で留学報告をする時間を設け、その時間を使って台湾の今の情勢や歴史、学んだこと、台湾と日本の違いなどを発表したいと思っています。また、今回のプログラムで友達になった台湾の高校生と交流を続けていき、将来日本と台湾の両国で仲間と日本と台湾の魅力についてのプレゼンなど、異文化理解に関係するイベントを行っていきたくと考えています。また、機会があれば市でもイベントを開催し、台湾について発表していきたくと考えています。



淡水の高校生と淡水老街で交流



前鎮の高校生と学校内交流

つばさプロジェクト SDGs 探究コースⅠに参加して

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私が実際に台湾へ留学をしてみて1番大切に思ったのは「積極性」です。参加前の自分には積極性がなく、誰かとコミュニケーションを取ることに苦手意識があったので「班で行動する際にどこへ行くか」という話し合いでも私はあまり意見を言いませんでした。しかし、留学中、ある仲間がカタコトでも、なかなか伝わらなくても必死に相手とコミュニケーションを取ろうとする姿を見て、「このままではいけないな」と思いました。彼女のおかげで私はその後、積極的に会話や質問をすることができるようになりました。帰国後も初めて話す学校の仲間に積極的に話しかけ、仲良くなることができたり、意見が言いづらい場面でも自分の意見がはっきり言えるようになりました。

2 台湾に対する理解や印象について

台湾を訪れたことがある人に「台湾はいいところだし、みんな優しいよ!」と言われたことがありました。台湾は日本から植民地支配を受けた過去があるのであまりよくない印象をこちらに持っているのではないかと考えていましたが、実際留学して、あるお店で、「もしかして日本人ですか?」と店員さんに聞かれ「そうです!」と答えるとその後、日本語で対応してくれました。さらにそのお店だけでなく夜市に行っても日本語を喋れる方がたくさんいました。もし私が日本で店員をしていて台湾の方が来られても話せないと思うのすごくいと思ったし嬉しかったです。ホストファミリーのお父さんも昔日本に住んだことがあり、日本語を流暢に話す方だったので日本語でいろいろなお話ができて楽しかったです。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

台湾の学生はとにかく英語の発音、文法がしっかりしていて日常会話以上のレベルの英語を話すことができていてすごいと思いました。英語で会話をするとわからない単語ばかりで自分の英語力の無さを実感しました。B&Sで一緒に回ってくれた大学生が本当に面白くて可愛くて大好きでずっと話しかけに行っていました。私は英語が全く喋れないので、ジェスチャーをする、とりあえず単語を並べるということを意識して話していました。それだけでも言いたいことがしっかり相手に伝わりました。確かに英語は完璧に喋れた方がいいけど、喋れなくても伝えようとする姿勢が大事だと思いました。

4 今の目標や今後の進路について

この留学で私はさまざまな言語を喋ることができたら楽しいだろうなと思うようになりました。私が今1番興味のある言語は台湾語です。私は台湾語というものが存在することを初めて知りました。「こんにちは」でさえも中国語と違って面白いなと思いました。私は言語を学ぶことが大好きで、理解はできるけど話せないの、英語もそうですが話せるように頑張りたいです。進路は、語学が学べる大学に進みたいと考えています。なので今回の留学の体験を活かして、さまざまな言語やその国の文化に触れて、その国について深く知れたらいいなと思います。

5 帰国後の活動

台湾の魅力や自分が見たもの、聞いたこと、体験した内容をレポートにまとめ、まずは私の学校でプレゼンテーションをしたり、学校のWEBページなどで情報発信をしたりするなど、多くの高校生が海外留学をすることに興味関心を持ってもらえたらと思っています。また、留学関係のイベント等に参加する機会があれば、私の体験をプレゼンテーションできたらと思っています。



台湾といえばフライングシアターでしょ



白菜と角煮の博物館

自分を変えた大きな挑戦

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

チャレンジ精神。私がこのプロジェクトに参加したことで身に付いたと思う力です。参加前の自分は失敗を恐れ、新しいことに挑戦することに消極的な気持ちでいました。しかし、学校で先輩方の留学の話を聞き「これに参加したら私も何か変わるかもしれない。」と思い、思い切ってこのプロジェクトに応募しました。実際台湾に行き、英語でのコミュニケーションが主となるなかで言いたいことが相手に伝わらないといった「言語の壁」に多く悩まされました。それでも現地の方々は話を聞こうとしていて、「私もそれにこたえない」と思い、別の表現を使用するなど何とか相手に伝えようと思うようになりました。この経験から「トライ&エラー」を繰り返すことの大切さを学び、様々なことを前向きで捉えるようになりました。

2 台湾に対する理解や印象について

親日家の人が多いことが衝撃的でした。かつて台湾は日本に植民地支配をされていたにもかかわらず、私たち日本人にとってもフレンドリーに接してくれる人がほとんどでした。町では多くの日本企業があり、日本語で書かれているものも多くありました。交流協会で聞いたお話の中で「台湾人は過去の出来事を客観的に見ている。」とあり、「本当にその通りだな。」と思いました。また、バイクの交通量の多さも印象的でした。道路にはバイク専用の道路があるなど、バイクは現地の人々の生活に深く関わっているのだと思いました。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

現地の高校生や大学生との交流では彼らの語学力とエネルギーに驚かされました。台湾では日本よりバイリンガル教育が進んでおり、彼らとは英語を使ってコミュニケーションを取りました。その中で文法はあまり意識しなくても、単語やジェスチャーだけでも通じることが多く、「あなたと話したい」という気持ちさえあれば意外と何とかなるのだなと思いました。また、ホームステイでは台湾の人々の生活を体験することが出来ました。日本とは全く違う生活様式から、文化の違いや「国が違えば文化も違う」ということを改めて実感する機会となりました。

4 今の目標や今後の進路について

まずは何といっても英語力です。先程「気持ちで何とかなる」と書きましたが、そうはいっても伝わらないこともたくさんありました。そんな時に「もっと英語が話せたらな」と悔しい思いをしました。これから英語を勉強するモチベーションアップにもつながったので、単語を中心に英語力を向上させていきたいです。

また、今回の経験は今後の進路を考えるきっかけにもなりました。まだ将来就きたい職業やいきたい学部などが決まっていますが、この経験で自分の視野が広がりました。ここから自分のやりたいことや就きたい職業について考えていきたいです。

5 帰国後の活動

学校で生徒の皆さんに向けた報告会と文化祭で中学生や地域の方々に向けた報告会を計画しています。その中で台湾の魅力や留学の良さについてたくさんの人に伝えていきたいと思っています。また、台湾について知らないことがまだまだたくさんあるので、そのことについても調べ学習を深めていきたいです。



澄清湖



九份

将来につながる留学

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私は元々外国に興味を持っていて、この台湾の留学プロジェクトに応募をした。事前に台湾の日本統治時代などについて調べていて、台湾の人々はなぜ日本があんなに残酷なことをしたにも関わらず、友好的であるのかと疑問に思っていた。そして実際台湾の人々の中ではもちろん日本統治時代のことを悪く思っている人はいるようだが、それよりも経済発展をさせてくれた日本に感謝している人のほうが多いことがわかった。参加前、台湾は日本と同じ東アジアの国だからかなり異なる部分はないだろうと思っていた。だが実際現地から帰ってきたとき、日本と台湾のそれぞれの良さや課題を感じた。

2 台湾に対する理解や印象について

台湾も今では先進国入りできるような勢いで発展している。実際現在日本と台湾の相手では正式な国交はないが、それでも日本は統治していた過去があり、そんな事があったにも関わらず、友好的にしてくれている台湾とはお互いが支え合っていく必要があると考えた。過去には2016年に台湾南部で地震が発生した際には被災地の台南市に対し国際協力機構(JICA)が緊急支救助物資の給与を行った。また反対に台湾が今年の1月に発生した能登半島地震の際に台湾の外交部(外務省に相当)が6000万円の寄付を行っている。このような関係が今後も続くことを願っている。

3 高校生との交流やB&S、ホームステイ等から学んだこと

現地の大学生、高校生との交流をして一番問題だと感じたことは言語の壁である。自分は英語が得意な方だと思っていたが、現地に行って話してみると伝えたい単語が出てこなかったり、細かい文法のミスなどで意味を取り違えられてしまったりすることがあった。また、現地の人たちにも英語力の差があり、少し難しい英語だと伝わらないなどのことがあった。そのため日常会話のちょっとした中国語または台湾語のあいさつを覚えていっていればよかったと感じた。しかし、今回の留学を通して自分の英語には何が足りないのかが明確にわかり、これからの英語学習のモチベーションになった。

4 今の目標や今後の進路について

もともと外国の文化や言語に興味を持っていたが、今回の留学を通して更に興味が深まった。大学では国際系の学部に行って英語と中国語に力を入れて、今回よりも長期間台湾に留学し、更に台湾について学んでみたいと感じた。私の将来の夢であるCA(キャビンアテンダント)を間近で見ることができて、とても良い機会となった。本物のCAの仕事姿を見たことによってCAに憧れる気持ちが大きくなった。大学受験に対する気持ちも大きく変わった。また、今回の留学のことを学校人たちにも新聞などの掲示物にして発信していきたい。

5 帰国後の活動

誰かに自分の留学話を聞いてもらうことが何よりも大事だと考えたため、まずは自分の身近である家族や親戚、部活の仲間、友達などに今回の台湾留学を通して、現地の様子や自分自身が感じたことを話した。また、学校ではこれからだが、新聞などの掲示物にまとめて多くの生徒の目につくような場所に掲示をして情報を発信していこうと考えている。



九份



士林夜市

台湾の方々との関わり

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前は、外国の方と英語で話すことに少し抵抗があり、あまり自分から話すことができなかった。しかし、台湾の人とコミュニケーションを取るには英語を使うのが一番だったため、自分から英語で話しかける事が多かった。台湾の学生も英語を学んでいる身なので親しみが持てて話しやすく、自分の話すことが伝わると嬉しくて自信に繋がり、その結果、帰国後もいろいろな人と自分からコミュニケーションしようという意識が向上した。また、自分の伝えたいことをそのまま伝えることは難しかったため、もっと話せるようになりたいと思い、参加前に比べて英語学習のモチベーションが上がったと感じる。

2 台湾に対する理解や印象について

はじめは、台湾と中国の関係が複雑であることや、日本もかつて台湾を植民地としていたことから、台湾に行くのが不安な部分もあった。実際に行ってみて、台湾の歴史的背景について深く学び、自分が思っていたより複雑な情勢がからんでいるという現実を改めて学んだ。一方で、大きな地震が起こったときに一番に支援してくれたのが台湾だったことなど、現在は日本と台湾が支え合える関係になっていることも学んだ。また、台湾の街中を歩いているときに知らない現地の人々が積極的に話しかけてくれたり、日本人にも対しても温かくてフレンドリーな方が多かったため、台湾の方々から日本にいい印象を持ってもらっていると感じて深く感銘を受けた。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

現地の学生たちとの交流を通して、自分から話しかけることの大切さを学んだ。言葉の壁が厚かったことで、台湾の人同士で話しているところに入り込むことは難しかった。だから、自分から気になったことをすぐに現地の人に質問することを意識すると、たくさんの人が集まってきてくれて答えてくれるため、そのうち色々な人と話すチャンスを増やすことができた。また、その流れで普段の生活について話してくれたり、SNS を交換できたことでお互いのことをもっとたくさん知ることができた。日本にいたと、自分から話しかけるのに躊躇してしまうことが多かったが、日本にいても台湾のようにたくさん質問したり話しかけて、色々な人と話す機会を増やしていきたい。

4 今回の目標や今後の進路について

実際に台湾に行って英語でコミュニケーションを取ってみて、自分の英語力の低さを痛感したため、もっと英語の勉強に力を入れて、高校生の間に英検準一級を取りたい。また、台湾に行ってから中国語にも興味を持ったため、中国語もこれから少しずつ勉強していき、最終的には中国語でも軽くコミュニケーションが取れるようにしたい。今後の進路は、自分の興味のある自然環境や海洋生物について学ぶため、海洋学や水産学を学べる大学に進学したいと考えているが、今回の留学がとても充実しており、もっと長く滞在をしていろいろなことを学びたいと感じたため、大学に行ったら一年間くらいの長期留学にもチャレンジしたいと考えている。

5 帰国後の活動

私はInstagramをよく使うため、留学中は毎日、その日に撮った写真や驚いたこと等をストーリーに投稿することで、自分たちの体験を多くの人に共有した。また、クラスメイトや部活の仲間、家族や親戚などたくさんの人に台湾での自分の体験を話した。春休み中に台湾に行った他のメンバーとも振り返りをしたいと話しているため、その時にまとめ方や他の発表の場や手段についても話し合い、多くの人に台湾について知ってもらえるように考えたい。



観光地で交流を行った
現地の方



淡水商工で高校生と交流した際の画像

台湾留学を通し学んだ異文化コミュニケーションの魅力

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

留学を通し私は英語を使い積極的なコミュニケーションを取ることができるようになった。正直なところ、私はあまり英語が得意ではなく留学に向け語学力に大きな不安があった。しかし、台湾の高校生や大学生との会話では中学生時代に習ったような簡単な文法や、単語の羅列でも意思の疎通を図ることが不可能ではなかった。相手に伝えたいことをまずは言語化し、伝わらなかった場合にも諦めずになんとかして伝えるという強い気持ちが英語でのコミュニケーションではとても大切だと感じた。今現在も現地で交流した淡水高校の高校生と LINE やインスタグラムを通し毎日やりとりをおこなっており、英語を使った国際交流の魅力を日々感じている。

2 台湾に対する理解や印象について

私は、もともと台湾について「親日国家である」という印象があった。しかし同時に、日本が台湾を統治していた歴史があるにもかかわらず台湾の方々が日本人に親切に接してくださるということに引っかかりを感じていた。日本台湾交流協会という日本と台湾の交流の窓口の役割を果たしている公益財団法人に訪問した。その際に職員の方から統治時代の日本の行為に対して台湾の方々がポジティブに捉えている点も多く存在するとお聞きし、台湾の方からの日本への温かい姿勢を感じることができた。実際、現地の夜市や訪れた観光地では「どこから来たの?」と聞かれる場面があり「日本です。」と答えると、カタコトの日本語で挨拶を返してくださる場面が多くあり、台湾の方々の温かさを感じた。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

現地の高校生や、大学生との交流を通し日本と台湾の食文化の違いを特に大きく感じた。ホームステイの際に、スーパーマーケットに行ってお土産を買いに行くと伝えたところ、スーパーマーケットとは何かと聞かれた際にはとても驚いた。台湾では、3食とも外食をしている家庭が多く家で料理をする家庭は数が少ない。そのため、日本では至る所に存在するスーパーマーケットがあまり普及していなかった。また、夜市が至る所に存在しており日本の外食と比べ比較的安い値段で食事を取ることができ改めて外食の普及率を実感した。このように、日本では当たり前だと感じている日常的な風景も異文化の地に足を踏み入れてみるとさまざまな違いを感じることができ、新しい発見ができたと感じている。

4 今の目標や今後の進路について

私は、今後の目標として海外への長期留学を視野に入れて進路の検討を行なっている。今回の留学を通して、英語を使った異文化交流の楽しさを知ることができた。また、中国文化大学の大学生との交流を通して日本の大学だけでなく他国の大学について解像度を上げることができたことは自分にとって大きなプラスになる経験だったと感じている。今まで、英語を使った会話の実践経験がほぼ皆無であったため、海外に行くことに関してあまり積極的に考えることができていなかったと改めて感じた。今回の経験を活かし、自分の進路や高校生活について改めて考え、将来自分のやりたいことや、なりたい人間像をより具体的に考えていきたい。

5 帰国後の活動

私は現在、つばさプロジェクトを利用した人たちと共に自分の通う学校内で留学報告会を開催しようと考えている。私の通う諏訪清陵高校は附属中学校があり、高校生だけでなく中学生にも留学の魅力を伝えることができる。自分が今回の留学で海外の魅力に気づくことができたようにより多くの人たちに留学に興味を持ってもらえるように自分の経験したことを後輩に伝える活動を行いたい。



観光地で交流を行った
現地の方



淡水商工で高校生と交流した際の画像

台湾への留学

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

帰国後の自分が変化したことはたくさんありますが、1番は英語に対する認識です。そもそもこのプロジェクトを知る前は正直なところ、留学は語学のためのものというイメージが強く英語が苦手な私には縁がないものだと思い込んでいました。そして、私にとって英語を勉強するということはテストや受験のためだけであって、海外へ出てコミュニケーションをとるためのものではありませんでした。

以前から SDGs に興味があったので語学ではない留学というものに惹かれ参加を決意しました。漢字や漢文が好きで中国語圏の台湾を選んだことに間違いはありませんが、ほんの少し英語のための留学ではないし漢字でどうかなるはず…という逃げもありました。しかし実際に留学に行ってみると、看板などは漢字で予測できてコミュニケーションは全て英語だったため、自分の認識が甘かったと反省しました。なにより英語はコミュニケーションをとるために勉強しているんだ、と思わされました。もっとたくさん英語を勉強して、海外へ行きコミュニケーションをとりたいと思うようになったことが一番の変化だと思います。

2 台湾に対する理解や印象について

私はこのプロジェクトを通して台湾のことを親日国として好き、ではなく台湾そのものを好きになりました。もともとの台湾についての知識は広く浅く程度で、聞いたことはあれど、事実かどうかは不確かなものばかりでした。ネットでは中国との関係など様々なことが書かれていていましたが、実際に台湾へ行ってみると、その情報の全てが正しいとは限らないことを知りました。また、日本の曲や映画が台湾でも親しまれていることを初めて知りました。私はあまり洋楽などに詳しくないので勝手なイメージかもしれませんが、日本で台湾の曲を聞く機会はほぼ無いと思います。それなのに台湾では日本の曲が有名で親しまれていることが個人的にとっても興味深かったです。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

最初にも書いた通り、私は日本語以外の言語でコミュニケーションを取る楽しさを学びました。ホームステイ先では英語どころか単語すらもなかなか聞き取れず、お互い非常に苦勞をしながら身振り手振りを使ったりしてなんとかやり取りをしました。アレルギーなど命に関わること以外は翻訳を極力使わずにやり取りしましたが、日本とは全く違うものやことに触れるたびに私は感動したのに、ホストファミリーに全てが伝わらないもどかしさがすごく印象に残っています。何度、もっと勉強しておけばと後悔し、今後頑張ろうと決意したかわからないです。言葉でコミュニケーションが取れなくても優しく接してくれたホームステイ先のご家族にはとても感謝しています。

また、淡水で泊まった際にみんなで集まって UNO をしたのですが、そのときに色々な中国語を教えてもらいました。普通は習わない悪口を教えてもらってとても盛り上がり、ここでも言語を知ることが楽しいと再確認しました。英語であろうと中国語であろうと、お互いの疑問が理解できた瞬間のなんとも言えない感情は留学ならではの素晴らしい体験だと思いました。

4 今の目標や今後の進路について

私の目指す進路に直接海外が関係する予定はないですが、このプロジェクトを通して英語を学ぶ理由が自分の中で変わりました。今の私の目標は「英語を使うことを意識して学ぶ」です。授業やテストではリーディングに比べて比較的リスニングは得意だったはずなのに、現地では全く聞き取ることができませんでした。むしろリスニングのテストより文法や慣用表現を使わないで伝えてくれようとしているのになかなか聞き取れずとても悔しかったです。お互いに英語は第一言語ではないので、ただでさえ私は英語がわからないのに訛りもあってとてもコミュニケーションを取ることに苦勞しました。

私は英検を受験したことがないので「話す」ことに慣れず、それもまた苦勞したことの原因の一つです。おそらくこれは英語をテストや受験のために勉強しているままだとなにも変わらないと思います。私はこの経験を活かして、英語を使ってコミュニケーションできるようになることを目指します。

5 帰国後の活動

すでに Instagram を利用して留学の様子や体験などを発信していますが、学校で発表することでもっとたくさんの生徒の方にこのプロジェクトでの経験や学んだことを伝えたいと考えています。また、Instagram の投稿には写真だけでなく文章を添えてどのような活動をしてこの写真を取るに至ったのかもわかりやすくしたいと思います。そして海外での生活を体験することの素晴らしさを伝えたいと考えています。



現地の方との交流 B & S での交流

台湾留学から学んだこと

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加が決まる前は、海外に対するイメージが漠然としており、金銭的な問題から当分行かないだろうと思っていたため、細かく調べることもなかった。小説は国内のものばかり読んでいたし、英語以外の言語を学ぶ気もなかった。まず実際に行く前に、申し込んで参加が決まったとき、初めて海外のことが学ぶべき自分ごとになったと思う。

よく海外に行くと視野が広がるというのが、現地に行って本当にそれを実感した。

日本人とは全く違う価値感を見たため、周りの評価が絶対に正しいと思うこともなくなり、他人が前より気にならなくなった。また、後ろ向きな態度では機会を失うし、スケジュールが詰まっている留学では泣き言を言っている暇はないということを痛感したため、一見できるかわからないことにも思い切って挑戦しようと思うようになった。

2 台湾に対する理解や印象について

優しい人が多く、温かい雰囲気のある国だと聞いていた。実際その通りだったが、日本人のイメージする優しいとは違う優しさに見えた。常に笑顔で、丁寧といった日本人的な優しさというよりは、親切な行動に躊躇わず、簡単にやってのけるさっぱりとした優しさがあると思った。

また、台湾の学生は英語が得意だと事前学習で聞いていたが、予想を大きく超えていた。台湾の学生はすでに英語をコミュニケーションのツールとして持っていると感じた。私は英語を組み立てるときに焦って感情が抜け落ちて無感情な言い方になってしまうが、台湾の学生は英語を話すときでも笑ったり呆れたりするニュアンスを込めて話していたので、こんなふうに英語で話せるようになりたいと強く思った。

3 高校生との交流や B&S、ホームステイ等から学んだこと

一切日本語が通じない相手と会話したことが、自分の英語に対するイメージを変えてくれた。苦手意識よりも、唯一のコミュニケーションの糸口だという認識が強くなった。またネイティブではない人同士の英語での会話が予想以上に難しく、言語の壁を感じた。まず、アクセントがネイティブと少し違うことが、思ったよりも聞き取りを困難にした。また、日本人に対しては一単語一単語ゆっくりと話す英語の方が伝わりやすいが、台湾の人に対しては一文をまとめてしっかりと言い切った方が伝わるように見受けられた。これは母国語の特性の違いからくるのではないかと考えた。

また、主に英語で会話する場合でも行き先の言語は学習する意義があると思った。

台湾の人と話す際、とても初歩的ではあるが中国語を勉強したことが思ったより良い方向に作用した。会話の中で「嬉しい」などを中国語で言うのとより好意的なニュアンスを伝えることができ、母国語で話すということのすごさを実感した。

ホームステイ先の人も、交流してくれた学生たちもとても気さくに接してくれ、とても一緒に過ごすのが楽しかった。英語力だけでなく、そういった点もコミュニケーションにとっても大切だと改めて思い直した。自分ももっと自然で率直な態度で人と接したいと思った。

4 今の目標や今後の進路について

実際にやってみて視野を広げていくのがすごく楽しかったので、特にジャンルを問わず様々なことに挑戦したい。もっと色々な人と話したり、色々なことを知れるように、特に語学に力を入れたい。また、誰かと話したり、何かに挑戦したりするときに妨げにならないように、もっと自分を信じられるようになりたい。

今回の留学によって、自分の中で外国に進学するという選択肢が増えた。理系に進もうという気持ちは変わらないが、海外で学んだり働いたり、外国の人とも協働できるような語学力を身につけたい。また、自分の履修している科目を楽しそうに話す学生に感化されたため、それほど興味を持てるような分野を探したい。

5 帰国後の活動

スライドで発表する会などに参加する他、地道に周りに話していくつもりだ。ただ楽しそうと思わせるだけでなく、次の留学に繋げるためには、実際にかかる費用や、どれだけ英語力が必要かなどの行く時に直面する不安などに関しても丁寧に説明する必要があると考える。また、高校生のうちに行く強み、旅行でなく留学する強みに関しても説明したい。



九份



士林夜市